

家庭科で活用する地図帳

富山大学人文学部 准教授 大西 宏治

授業のなかの地図活用

こんなときにも地図帳を

1. 家庭科と社会科の関係性

家庭科は社会科とさまざまな面で関係があります。家庭科では、食事、衣服、住まい、家庭生活、消費生活といったものを授業で取りあげます。食事で調理を学ぶ際、そこで使う材料が生産された地域を考える機会になります。また、衣服は地域の気候に合わせて、地域に合ったもの考える必要があります。家屋の建て方は気候や地形を考慮します。家庭生活や消費生活は社会のあり方と密接な関係があります。このように家庭科は社会科と深いかかわりがあることがわかります。

今回は家庭科の授業で地図帳の活用を考えてみましょう。家庭科の授業を地図帳と組み合わせることで、いきいきとした内容になるのではないかと思います。では、具体的にみてみましょう。

2. 日本の食文化と地図帳

家庭科で学習する食事のなかに、日本の伝統食があります。米を使った食べ物や各地の特徴的なみそ、だしなどが教科書に取りあげられています。

まず、ご飯についてみてみましょう。『楽しく学ぶ小学生の地図帳』（以下、地図帳）の p.67 ①を開いてみましょう（図1）。「土地利用とおもな農産物の産地」が掲載されています。土地利用をみると沖縄県を除き、北海道から九州まで「田」が分布することがわかります。また、米の生産が多い県として北海道や新潟県、東北地方や北関東といった地域の特徴があることもグラフから読み取れます。店頭には、「新潟県のこしひかり」といった有名な産地の米だけではなく、児童の暮らす地域やその近隣で生産された米も並びます。個人の好みや家庭の事情に合わせて食べる米を選択できるのです¹⁾。



図1 土地利用とおもな農産物の産地 『楽しく学ぶ小学生の地図帳』 p.67①

さらに、地図帳を使えば自分の食べている米はどこから輸送されているのかを確かめたり、輸送距離をはかったりすることもできます。口にするものがどの程度の距離を輸送されてきたのかを考えるきっかけになります。そして、輸送距離の短い地産地消を考えるきっかけを児童に示すこともできます。

また、だしについて取りあげ、昆布や煮干し、かつお節などのだしを使う地域の違いに注目すると、伝統料理の地域性を考えることにもつながります。今では一般的な昆布だしですが、江戸時代に北海道から北前船で運ばれ、大阪に集積されて西日本中心に広がり、その後、関東にも広がっていったことが知られています。地図帳 p.69 ②「江戸時代の交通路」を見ながらこのことを考えるとよいでしょう（図2）。

3. 季節による衣服や住まいのあり方

日本は四季がはっきりしており、夏や冬で衣服や住まいのあり方を変えながら生活をしています。そのことを家庭科でも具体的に取りあげています。

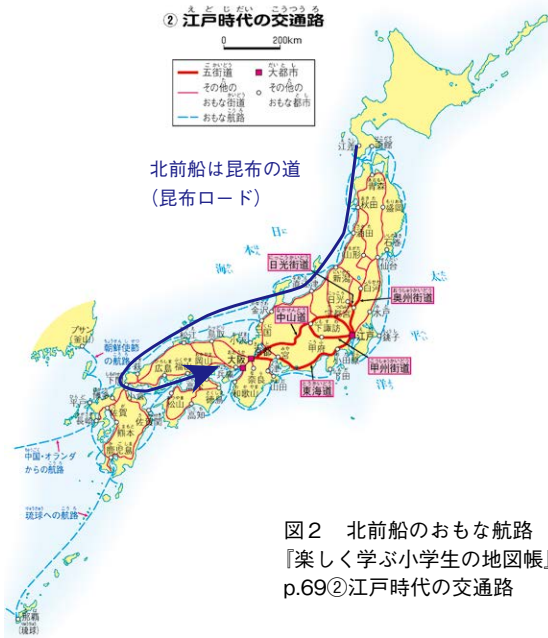


図2 北前船のおもな航路
『楽しく学ぶ小学生の地図帳』
p.69②江戸時代の交通路

シナリオ 3人家族が午後5時に被災

居住地：神通川左岸の住宅団地に居住
被災時刻：午後5時に神通川左岸が決壊
家族構成：3人家族
父：都市の中心部勤務→帰宅準備
母：近所でパート→在宅中
子ども：小学5年生女子→学習塾に



ポイント
①父は帰る場合、渡河が必要
②子どもは比較的安全な場所にいる
③母は何かできるのか？

図3 洪水災害のDIGの例
(地図：富山市「富山市洪水ハザードマップ」より筆者作成)

地の動きをシミュレーションするものです。

平日の午後5時に洪水災害が発生すると、家族全員がばらばらの場所にいるかもしれません。そのようなとき、どのような行動をすれば危険を避けることができるのか、家族の安否をどのように確認するのかを考えてみるのは大切です⁵⁾。家族の生活時間を把握し、ハザードマップ上で家族の動きを考えたり、災害時の決めごとをつくったりすることも重要です。また、災害種別で避難行動は異なりますので、自分の暮らす地域にどのような災害が考えられるのかを調べてみるのもよいと思います。



5. おわりに

このように家庭科の授業においても、その内容をより現実に即して実感させるツールとして地図帳や地図を利用できることがわかったと思います。とくに家庭科は地域や社会と密接につながった教科ですので、地図帳や地図を利用する効果が高いはずで、機会をみながら地図帳や地図を利用した授業を実践してみたいと思います。

- 1) お店に行くまでもなく、大手通信販売のウェブサイトを見れば、さまざまな地域の米が販売されていることが確認できます。
- 2) 平年値を利用。気象庁のウェブサイトより。
- 3) 2) と同じ。
- 4) Disaster Imagination Gameの略。
- 5) 災害時、携帯電話が通じるとは限りません。



4. 防災への対応

家庭生活を考えるなかで、防災の対応について話し合ってみてはどうでしょうか。家庭科の教科書を見ると、「家族で防災について話し合う」項目があります。災害を防ぐ工夫や防災マップづくりについては社会科で取りあげる先生も多いと思います。このとき、災害がいつ起こるかで、家族の動きがまったく変わってきます。家庭生活のあり方と災害時の動きを考えるような取り組みをしてみたいと思います。最近、DIG⁴⁾ (災害図上訓練) という言葉が使われるようになりました (図3)。地図などを使いながら、災害